

②^{とも} 瀬松永線道路改良事業（瀬未来トンネル）

受賞機関 広島県 東部建設事務所

キーワード トンネル、道路、住民参画、イベント、
情報発信、景観への配慮

全建賞審査委員会の評価ポイント

埋立架橋計画の賛否を巡る長年の論争を経て、賛成・反対双方の立場の住民が参画する住民協議会を設置し、時間をかけて丁寧な合意形成を図るとともに、歴史的・文化的景観を保存しながら山側トンネルの供用により町なかの交通量を大幅に削減するなど、プロセスと事業効果の両面において優れた成果を挙げた点が評価された。

1. はじめに

瀬戸内海沿岸のほぼ中央に位置する「瀬の浦」は、古代より潮待ちの港として栄え、瀬戸内海の交通の要衝として重要な役割を果たしてきた港町であり、瀬戸内海を代表する景勝地である。

瀬地区の中心部を通る瀬松永線は、古くからの家屋が多く残り、道幅が狭く対向車とのすれ違いが困難であるため、通勤時間帯や観光シーズンに交通混雑が発生し、地域住民の生活や安全に支障が生じていた。

この交通課題を解決するため、「瀬未来トンネル」の工事を令和3年度から進め、令和7年3月に開通した。



テープカットとくす玉開披

2. 事業の概要

瀬松永線は、道幅が狭く慢性的な交通混雑が生じていたため、昭和58年に瀬港の一部を埋め立て、橋を架ける埋立架橋計画を策定したが、瀬の浦の歴史的・文化的景観が損なわれるなどの反対の声が強まり、埋立免許の差止めを求める訴訟にまで発展した。

このような状況の中、賛成派・反対派の立場の違いを乗り越えて、瀬地区が抱える課題に立ち返り、住民が日常生活で直面している様々な問題やニーズを共有し、その解決策を直接話し合う場として「瀬地区地域振興住民協議会」を設置した。

住民協議会では、平成22年から平成24年までの約2年にわたり19回の協議を行い、平成24年6月に、住民協議会での意見を踏まえ、「生活利便性」、「安全確保」、「景観保全」の観点から、最もバランスの取れた解決策として、山側トンネルの整備に加え、生活利便性を確保するための8つの総合対策を推進する方針を公表し、従来の埋立架橋計画から、山側トンネル案へ方針を転換した。

また、トンネルの名称は、地元の小学生に考えてもらい、住民を含む検討委員会を経て、「瀬未来トンネル」に決定した。



山側トンネルを含む総合対策（概要図）

3. 事業の成果

トンネル開通後の交通量がどの程度変化したかを確認するため、交通量調査を行った。

瀬の町なかにおいて、トンネル開通前と比較して、日交通量では7割程度、朝ピーク時（7時～8時）においては、9割程度減少していることを確認した。

瀬未来トンネルの開通により、町なかを通過する交通量は大幅に減少し、一定の整備効果を確認することができた。

4. おわりに

このたび開通した瀬未来トンネルは、瀬の町なかの交通処理対策として大きな一歩となった。今後、県としては観光交通の流入対策に資する交通・交流拠点の整備や町なかの道路拡幅等による生活環境の向上に向けた取組を進めていく予定である。

賛助会員 ㈱荒谷建設コンサルタント、㈱建設技術研究所、五洋建設㈱、中電技術コンサルタント㈱